

令和四年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 問五 までであり、1 ページから14 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例：

）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|--------------|----------|---|------|---|------|---|------|
| a | 煩雑な手順を省略する。 | (1) ほんざつ | 2 | とんざつ | 3 | はんざつ | 4 | ひんざつ |
| b | 大臣を罷免する。 | (1) ひめん | 2 | のうめん | 3 | りめん | 4 | たいめん |
| c | 寸暇を惜しんで勉強する。 | (1) とひま | 2 | すんぴ | 3 | すんか | 4 | そんひ |
| d | 今日は爽やかな秋晴れだ。 | (1) おだ | 2 | さわ | 3 | なご | 4 | にぎ |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a ソクセキで作ったチームだが勝利した。
- 1 与党がギセキを大きく伸ばす。
 - 2 活動のキセキをたどる。
 - 3 コウセキをたたえる。
 - 4 別の球団にイセキする。
- b 法案をサイタクする。
- 1 生地をサイダンする。
 - 2 ヤサイを積極的に食べる。
 - 3 きのをサイバイする。
 - 4 森林をバツサイする。

c 竜はカクウの生き物だ。

- 1 物語がカキヨウに入る。
- 2 けが人をタンカで運ぶ。
- 3 メンカをつむいで糸にする。
- 4 ゴウカな衣装を身にまとう。
- d 米をトぐ。

1 センレンされた文章だ。

2 毎朝センチャを飲む。

3 仲間とボウケンする。

4 大学でケンキユウに励む。

(ウ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

かなしみは明るさゆゑにきたりけり一本の樹の翳らひにけり

前 登志夫

- 1 明るい光の中で一本の樹が翳っていくことに対して抱いたかなしみを、「かなしみは」と普遍的なものとして表すとともに、歴史的仮名遣いを用いて壮大に描いている。
- 2 明るさがあるからこそかなしみが浮き彫りになるのだという気付きを、一本の樹が翳っていったさまに重ねながら、「けり」を繰り返すことにより印象的に描いている。
- 3 明るさの裏に隠していたかなしみを、葉が生い茂るにつれて徐々に翳っていった一本の樹のさまを示すとともに、イ音を重ねて余韻をもたせることで効果的に描いている。
- 4 明るい日々のあとにはかなしみがやってくるのだという嘆きを、翳っていく一本の樹のそばで物思いにふける姿を明示しながら、ひらがなを多用して感傷的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

水野瀬高校放送部の「僕」と「赤羽さん」「南条先輩」は、「森杉パン屋」の「董さん」にインタビューを行い、昼の放送で流した。しかし、「董さん」が話を誇張していたという噂が広まり心労で倒れたこと、さらには閉店を考えていることを部員たちは知る。店の悪い印象を変えたいという思いから一連のできごとをラジオドラマ化しようと、「巖先輩」も加わって制作を進めていたある日、「僕」は「森杉パン屋」に閉店のお知らせが貼られているのを見つける。そこへ「董さん」が通りかかった。

「あの、すみませんでした。僕らのインタビューでお店に迷惑をかけてしまった。本当に、こんな、こんなことになってしまつて……。」

謝つても済む問題ではないとわかっているだけに言葉がもつれる。せめて頭を下げ続けることしかできない僕に、董さんは軽やかな口調で言った。

「謝る必要なんてないわ。あのインタビューを受ける前から、お店は年内で閉めるつもりだったの。」

驚いて顔を上げた僕に「もともと、あまり体調がよくなかったのよ。」と董さんは笑いかける。先日倒れたというのも、心労以上に持病が悪化したことが大きかったそうだった。

僕らのインタビューだけが原因で店を閉めるわけではないのだと知りホツとした反面、疑問もよぎった。「だったら、どうしてインタビューにに応じてくれたんですか？ 僕たち電話で『水野瀬高校の生徒にお店の存在をもっと知ってもらいたい。』『お店を盛り上げるお手伝いをしたい。』つてお話ししましたよね。お店を閉めるつもりならそんなインタビュー受ける必要もなかったんじゃないか？ それなのに、どうして……。」

董さんは口元に笑みを浮かべると、立ち話もなんだから、と店の引き戸を開けてくれた。

カーテンを抜け、久々に足を踏み入れた店内は、商品棚にパンが並んでいないせいかわどくがらんとして見えた。カーテンが夕日を透かし、全体が薄い緑に染まっている。

董さんはレジカウンターに手をつけて、猫の子でも撫でるように台を撫でる。

「インタビューの連絡を受けたとき、とつても嬉しかったの。だってわざわざ声をかけてきてくれたつてことは、この店のパンが好きで、お客さんが少ないことを心配してくれた学生さんがいたつてことでしょう。」

ふふ、と柔らかな声を立てて董さんは笑う。

「古くなったお店を直すより、パンの種類を増やしたくて一生懸命パンを作つてるとね、たまに来るのよ。今にも潰れちゃいそうなの店の心配してくれる学生さんが。たくさんお友達を連れてきて『また来ます！』つて言ってくれる子とか、毎日毎日ひとつだけパンを買っていつてくれる子とか……。卒業すると顔を見なくなつちゃうんだけど、でもまたしばらくすると来るの。同じ制服を着た学生さんが。」

最初は恐る恐る店に足を踏み入れ、店内を見て驚いたような顔をして、それから足しげく通うようになってくれるらしい。南条先輩も、もしかしたらそうだったのだろうか。

「でも、学校全体にうちのお店を紹介しようとしてくれたのは今回が初めてだったの。インタビューに来てくれたみんなは熱心で、どうすれば店にお客さんが来てくれるか一生懸命考えて、この店のいい所がアピールできるような質問をたくさんしてくれたじゃない？ それを見たら、もうすぐお店を閉めるなんて言い出せなくて。」

がっかりさせてしまいそうだったから、と、董さんは申し訳なさそうな顔で言う。

胸の内に浮かんだ気持ちを言葉にするのは怖い。否定されるかもしれないと思うとなおさらだ。でも、赤羽さんも、巖先輩も、南条先輩も、僕の言葉を退けなかった。

返ってきたのは、三者三様の深い頷きだった。

(青谷^{あおや} 真未^{まみ})「水野瀬高校放送部の四つの声」から。一部表記を改めたところがある。

(注) 齟齬＝食い違い。

(ア) ——線1「僕らのインタビューだけが原因で店を閉めるわけではないのだと知りホッとした反面、疑問もよぎった。」とあるが、そのときの「僕」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 インタビューが閉店に直結したわけではないと知って気は楽になったものの、店を閉めるきっかけになったことは確かなのに、「董さん」が笑顔で接してくれることが理解できず不安に感じている。
 - 2 閉店は元から決まっていたと知って少し安心した一方で、店の存在を広めて力になりたいという思いを伝えていたにもかかわらず、「董さん」がインタビューを受けた理由がわからず戸惑っている。
 - 3 インタビューが閉店の要因ではないとわかって喜んだものの、パンの種類を増やすなど様々な努力を重ねていた「董さん」が、結局は店を閉めると決断した心境の変化についていけず困惑している。
 - 4 閉店の真相を聞いて納得した一方で、店に迷惑をかけていたことに気付いて申し訳なく感じるとともに、体調不良を隠してまで「董さん」がインタビューに応じた意図がわからず不審に思っている。
- (イ) ——線2「ふふ、と柔らかな声を立てて董さんは笑う。」とあるが、そのときの「董さん」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 学生たちが店を心配してくれたことに対して感謝の念を抱くとともに、当初の予定よりは早くなったものの、多くの人々に惜しまれながら閉店を迎えられたことを思い起こし、喜びに満ちあふれている。
 - 2 パン作りを通して学生たちと触れ合った日々を思い出し、閉店したことへの悲しみが改めて沸き上がってきたが、力になってくれた「僕」を心配させてはならないと感じ、寂しさを隠そうとしている。
 - 3 学生たちと交流することが喜びであり、お客さんが少ないことは大して気にしていなかったのに、インタビューの効果が出なかったと落ち込む「僕」のまっすぐな心に触れ、ほほえましく感じている。
 - 4 インタビューを引き受けたときのことを振り返るうちに、長年続けた店への思いがこみ上げるとともに、通ってくれた学生たちのことがありがたくもなつかしく思い出され、温かな気持ちになっている。
- (ウ) ——線3「今度こそ、嘘も飾りもなく届けたい。」とあるが、このときの「僕」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 あやまちを正直に謝罪した「董さん」の勇気に後押しされ、他人に流されやすい未熟な自分を振り返る中で、自分の視点から今回のできごとを捉え直して伝えてみたいという思いがふくらんでいる。
- 2 聞く人から高く評価されなければならないという思い込みが、「嘘」につながってしまうこともあるとわかり、脚色せずに真実を伝えることこそやってみたいことだという気持ちが高まっている。
- 3 思い込みや優しさが重なり合って「嘘」が生まれることは、誰の身にも起こり得ると気付き、一連のできごとを背景も含めて伝えることこそ自分のやりたいことだという思いが湧き起こっている。
- 4 店の力になってほしいという「董さん」の期待に応えようとするあまり、事実との食い違いを生んでしまったことを反省し、ありのままの真実を丁寧に伝えていきたいという決意を新たにしている。

(エ) 線4「伝わってるから、続けて。」とあるが、ここでの「南条先輩」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 インタビューの仕方を「僕」から暗に責められ落ち込んだが、みんなの責任だという「赤羽さん」の思いを受けて気持ちを切り替えているとわかるように、明るい調子で読む。
- 2 「董さん」から励まされたこともあって勢いよく話し始めたものの、具体的な提案もなく理想ばかり語る「僕」にいらだち、早く解決策を話し合いたいという思いを込めて読む。
- 3 インタビューの失敗は一人の責任ではないという自身の考えに、「僕」だけでなく「赤羽さん」も気付いてくれたことを嬉しく感じているとわかるように、弾んだ口調で読む。
- 4 「董さん」と会って考えたことを懸命に伝えようとしているものの、伝わっているのか自信がなさそうにしている「僕」のことを肯定し、後押ししようという思いを込めて読む。

(オ) 線5「体の脇で拳を握って、僕の言葉を待っている三人に思いの丈を伝えた。」とあるが、そのときの「僕」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 拒否されることを恐れるあまり、考えを掘り下げて言葉にすることを無意識に避けてきたが、受け止めようと耳を傾けてくれる三人の姿を見て、勇気を出して自身の思いを言葉にしている。
- 2 事実と異なることを言ってしまう恐怖が拭えず、伝えたい思いと向き合うことから逃げてきたが、間違えたとしても三人と正していけばよいとわかり、思い切って自身の考えを口に出している。
- 3 誤解されることを恐れるあまり、伝えたいことがあっても本音を隠してきたが、三人に促されて思いを言葉にしたところやはり正しく理解されず、悔しく感じながら自身の考えを伝えている。
- 4 本音を知られることへの怖さがあり、考えを言葉にすることに抵抗があったが、不安も分け合ってひとつの答えを出そうという三人に心を揺さぶられ、意を決して自身の思いを伝えている。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ラジオドラマについて部員たちと話し合い、自身の考えを振り返ることを通して、インタビューでの失敗を乗り越えていく「僕」の姿を、閉店の寂しさを引きずる「董さん」と対比させて描いている。
- 2 「董さん」へのインタビューを振り返る中で、考えを伝えることの怖さを知り、ラジオドラマを通して悩みを分かち合いたいと思うようになっていく「僕」の姿を、多くの比喻を用いて描いている。
- 3 「董さん」や部員たちと言葉を交わす中で、自分や相手の言葉と丁寧に向き合う大切さに気付き、ラジオドラマを通して伝えたいと感じるようになる「僕」の姿を、複数の場面を通して描いている。
- 4 言葉に対して様々な感じ方があるように、ラジオドラマに対しても部員それぞれの考えがあるかわかり、みんなの思いを大切にしていこうと決意する「僕」の姿を、「董さん」の視点から描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

言葉の本質をどのように規定するかを突き詰めるためには、次の考え方がもつ難点を克服しなくてはなりません。その考え方は、言葉は意思伝達のための「道具」であり「手段」であるという考え方です。

これは、ふつう私たちがとっている言語観です。ある「意」を伝えようと思ったとき、私たちは自分の属する言語共同体の中で通用している言語規範のととって、語を選択し語順を整えて一定の表現にまで構成します。その場合に用いられる言語記号には、いろいろな制約や疎通の困難さがともないはするものの、「記号を用いる」という事実からして、その記号がスマホと同じようなきわめて便利な「道具」であり、意を伝えるという目的にとつての「手段」であることは否定できないように思われます。たしかにそういう側面があることを認めなくてはなりません。

しかし、「道具」とはそもそもなんでしょうか。固定電話機やパソコンに比べてスマホは両方の機能を兼ね備えながら小型軽量でいつでもどこでも情報収集や情報交換ができるので、ほとんどの人がこちらに乗り換えています。このように、道具とは生活にとつての有用性という観点から編み出された「モノ」のことを意味します。

A 「手段」とは、「目的」という言葉と対関係にある概念です。出発点における目論見はすでに描かれており、その上でその目論見を達成するには、何を使いどういう経路をたどるのが有効かという観点から見た「行動」の観念が「手段」です。この「手段」という概念は、必ず目的とは明確に区別され、目的の概念に従属しています。

さてこれらのことは、言葉の使用という現象にそのまま重なるのでしょうか。私たちは、「大きい」という言葉よりも「でかい」という言葉のほうが有用で便利であるという理由から、後者を選ぶのでしょうか。そうではなくて、特定の生活文脈のなかで自分の思想表現としてはそのほうが適切であると感ずるためにそちらを選んでいるのではないのでしょうか。

また、意思伝達という目的にとつて、ある表現様式のほうが迅速確実で心的なコストもかからないからといって、人は必ずそちらの言葉のほうを選ぶのでしょうか。ある言葉の表出の以前に、人はどういう意思を伝えたいのかという目的を前もって決めておき、その目的にいちばんかなう手段として言葉を選択しているのでしょうか。

もしそうだとしたら、ある言ってしまった言葉に対していつまでも悔やんだり、感動のあまり思わず驚きや感嘆の言葉を発したり、わざわざ長い時間をかけ、工夫を凝らして文学的表現をするなどということなぜ人はするのでしょうか。それは、言葉が「意思伝達のための手段」ではなく、むしろそれ自身が「意思伝達＝思想」そのものであるからではないのでしょうか。言葉のやり取りにおいて、目的と手段とを分離して捉えることは正しいやり方でしょうか。

2 もし言葉がコミュニケーションの道具・手段にすぎないなら、それはちょうど宅配便のような流通手続きということになります。すると、伝達すべき意思是、まずはじめに固定した荷物として発信者側にあり、それが「言葉」という流通手段を通して受信者側に伝わり、受信者がそれを受け取って梱包を解いてみると、まさに発信者が送った荷物がそのまま受信者の手元に落ちるといふ話になります。伝達意思は正確に相手に伝わったことになります。はたして現実の言葉のやり取りはそういうふうになっているのでしょうか。まったくそうではない、と筆者は考えます。

もちろん、多くの実用的な言葉のやり取りにおいて、できるだけきちんと手続きを踏みさえすれば正確に「荷物」が届くという実感が抱ける場合も多いことは事実です。だから逆に、コミュニケーションがうまく行かないのは、「手段」としての技巧がまずいからだという論理が導き出せることにもなります。

B ここで問題にしているのは、そういうレベルの話ではありません。いくら話術や書き方に高

度なテクニクを用いて相手にこちらの意を正確に伝えようとしても思い通りにならないのは、そもそも言語表現というものが「正確に伝える」ということを本旨としていないからだと言いたいのです。とりあえず発話の場合だけに限って話を進めると、発話は、発話者の言葉の選択、発するときの調子、その会話がおかれた生活文脈などによって、受け手の側にどう受け取られるかが千差万別^{II}の結果を引き起こします。^(注)ここで、時枝誠記の言語本質論である言語過程説を紹介しておきましょう。時枝は、『国語学原論』において、言語の本質を概略次のように説きました。

まず話し手が事物や表象を素材としてそれを一定の概念にまとめる。次にそれを脳の中でその概念に対応する聴覚印象に転化する。それは音声として聞き手に向かって表出される。空気を隔てて音波として物理的に聞き手の耳にその聴覚印象が伝えられたとき、聞き手は、話し手とは逆の過程をたどって、聴覚印象↓概念↓事物・表象へとたどり着き、聞き手は話し手の言わんとすることを理解する。そうしてはじめて言語が成立する。

時枝は、時間的に継起してゆくこの一連の過程以外に、「言語」なるものは存在しないと考えました。彼は、表現行為の以前に存在する社会的実体としての「言語」という概念を認めなかったのです。

言語過程説では、言語の成立は、すべて話し手と聞き手との間に存在する心理的・生理的・物理的過程にゆだねられています。いったん言語を固定的な要素によって構成された社会的実体とみなすと、主体同士の間で交わされる実際の生きた言語活動の意味や価値がないがしろにされてしまうことを、時枝は、極度に警戒していたようです。

ひいては、社会的実体としての言語を認めることによって、古くからある言語道具観が導かれてしまうことを懼^{おそ}れていたとも言えます。その意味で、筆者自身が先に疑問の俎^(注)上^{そじょう}に載せた、言語を、思想を運ぶ手段、道具、運搬機械とみなす考え方に対して、時枝は有効な対抗論理を対置しているのです。

この説では、話し手の言語構成行為から聞き手の理解と認識までの一連のプロセスそのものが言葉の本質ですから、当然、聞き手も立派な言語主体です。そうだとすれば、聞き手が話し手の言葉をどう受け取るかは、聞き手の聞き方、つまり聞いた音声をどう言葉として構成し直すかというその仕方によだねられていることとなります。

時枝のこの説は、実際の言葉のやり取りというものがどのように展開されていくかということをよく説明しています。送り手の送ったものがそのまま届く宅配便の荷解^{にほ}きとはまったく違うのです。同時に、言葉が多義性や不安定性をもとも持つものだという、その理由の解き明かしにもなっています。

梱包した荷物が相手の手元でそのまま荷解きされないのは、多くの日常会話が、ただの事実の伝達を旨として行われるのではなく、互いの気持ち・情緒・感情の交錯を無意識に目標にしているからです。

人は必ずある気分の下にあるので、いわゆる理性的な会話というものは、そういうモードについての意識的な共通理解がなされていない場面ではたいへん成り立ちにくいものです。いくらでも話し手と受け手との間の気持ち・情緒・感情の交錯によってあらぬ方に展開してしまいますね。言葉というものは、そういう要素をもともっています。

したがって、この側面からは、言葉を発したりそれを聞き取ったりする行為は、つねに主体同士の関係をみずから変容させる行為であるという意味を持っています。これは、まったく些細^{ささい}で事務的な事実の伝

達、たとえば「書類、ここに置いとくよ。」「わかった。」といった種類の会話であっても例外なく当てはまることです。私たちはこのことをよくわきまえていて、だからこそ冷静なときには相手や状況にあわせて表現に気を遣うのです。

つまり、言葉はただの「道具」「手段」ではなく、そのつどの言語主体である話し手、聞き手の思想表出そのものなのです。

(小浜^{こはま} 逸郎^{いっお})「日本語は哲学する言語である」から。一部表記を改めたところがある。

(注) 目論見Ⅱ計画、設計。

時枝誠記Ⅱ日本の国語学者(一九〇〇～一九六七)。

組上に載せたⅡ対象としてとりあげた。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|-----|-------|---|------|-----|----|---|------|
| 1 A | したがって | B | たとえば | 2 A | もし | B | おそらく |
| 3 A | なぜなら | B | さらに | 4 A | また | B | しかし |

(イ) 本文中の~~~~線Ⅰの「ない」と同じはたらきをする「ない」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|----------------|
| 1 | 電車がなかなか来ない。 | 2 | 今年はあまり寒くない。 |
| 3 | 無駄な動きが少ない。 | 4 | 今まで一度も見たことがない。 |

(ウ) 本文中の~~~~線Ⅱの四字熟語と似た意味をもつ四字熟語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 一石二鳥 | 2 | 三寒四温 | 3 | 十人十色 | 4 | 千載一遇 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|

(エ) ——線Ⅰ「スマホと同じようなきわめて便利な『道具』」とあるが、ここでの「道具」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人間の能力だけではできないことを補助する目的で開発され、広く普及しているもの。
- 2 簡単に持ち運べる上に誰にでも使いこなせるという特徴があり、重宝されているもの。
- 3 多くの機能を有しており、単体でも様々な役割を果たせるという観点で作られたもの。
- 4 日常生活を送る上で、役に立つ上に使い勝手がよいという視点で作りに出されたもの。

(オ) ——線2「もし言葉がコミュニケーションの道具・手段にすぎないなら、それはちょうど宅配便のような流通手続きということになります。」とあるが、そのことについて筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 言葉を道具として用いることは、前もって決めておいた伝達意思を迅速に発信できる有効な手段だと理論上では言えるが、高い技術が求められるため実現することは難しい。

2 一般的な言語観で言葉のやり取りを捉えたと、伝えるべきことを確定させた上で適切に発信すれば伝達意思はそのまま伝わるということになるが、やり取りの実態は異なる。

3 伝達意思を固定化するために言葉を用いると、余計な情報が加わることなく発信できるが、正確性が重視されるあまりコミュニケーションを上手にとることは困難になる。

4 言葉のやり取りにおいては伝達意思を的確に発信することが重視されるべきだが、現実のやり取りでは表現に工夫を凝らすことが大切にされており、ずれが生じている。

(カ) —線3「表現行為の以前に存在する社会的実体としての『言語』という概念を認めなかった」とあるが、それを説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 言語活動がなくても言語は存在しているという言語観を肯定することによって、話し手と聞き手の間で交わされるやり取りが軽んじられることを危惧していたということ。

2 言語は時間の経過に沿って生みだされるものだという言語観を容認することによって、話し手と聞き手が言語活動に特別な意味を見つけ出すことを憂慮していたということ。

3 言語は個人の考えに基づいて組み立てられるものだという言語観を許容することによって、話し手と聞き手の思想が言語活動に影響を与えることを警戒していたということ。

4 言語活動と連動して言語は存在するという言語観を支持することによって、話し手と聞き手の間で行われるやり取りが価値あるものとされることを恐れていたということ。

(キ) —線4「聞き手も立派な言語主体です。」とあるが、それを説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 言語は、話し手が音声化したものを、聞き手が耳で捉えて概念化した上で理解するという手順を踏むことではじめて成立するため、聞き手も言語を形作る際には欠かせない存在であるということ。

2 言語は、話し手が音声化したものではなく、聞き手が受け取った音声概念として理解した上で構成し直したものを指すため、聞き手が言語を構築する過程にこそ価値があるということ。

3 言語は、話し手が音声化するだけではなく、聞き手が耳で感じ取ったものを概念化したのちに音として表出することも必要となるため、聞き手が言語を構築する過程にも意味があるということ。

4 言語は、話し手が音声化したものを、聞き手が確認をとりながら理解を深めていくという行為を繰り返すことによって成り立つため、聞き手も言語を形作る時には重要な存在であるということ。

(ク) —線5「相手や状況にあわせて表現に気を遣う」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 言葉は相手との関係によって使い方が変化するような不安定性を持つものであり、できる限り客観的な表現を用いて正確に伝えていく必要があると考えられているから。

2 言葉は共通の理念がないと成立が難しいような不安定性を持つものであり、よい関係を築くためには話し手の意図をくんで賛同を示す姿勢が大切だと理解されているから。

3 言葉は多義性を内包している上に流動的な性質を持つものであり、どのような表現を用いるかによって話し手と聞き手の関係は変わることがあると理解されているから。

4 言葉は多義性を有するために人によって捉え方が変わる性質を持つものであり、聞き手にあわせて話し手が意見を変えることで良好な関係を保てると考えられているから。

(ケ) 本文について説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 普段用いられている言語観の弱点を指摘するとともに、宅配便というたとえを用いて聞き手側から見た言語活動の意義を再確認し、主体の思想があらわれるという言葉の特質について論じている。

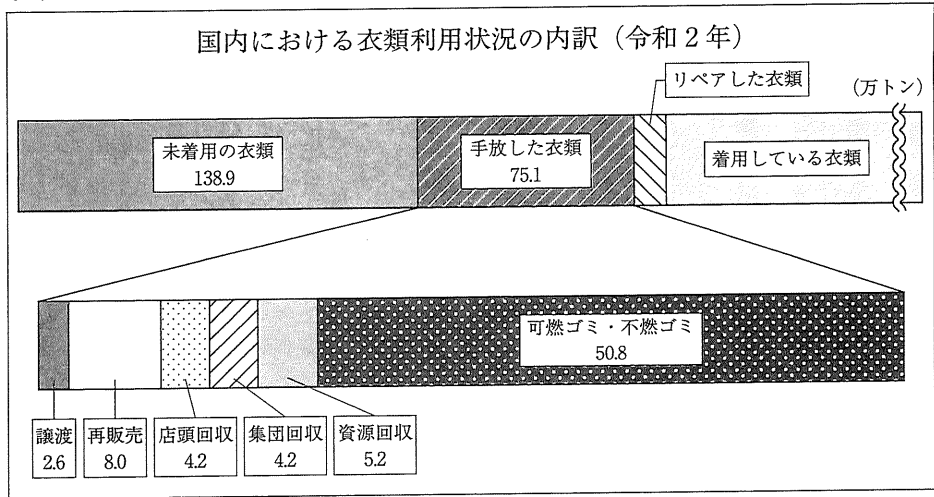
2 常識とされている言語観に疑問を投げかけた上で、国語学者の論理を用いて多くの会話が感情の交錯を無意識下で目指していると導き出し、言葉は主体の思想表出であるということ論じている。

3 広く用いられている言語観の難点を指摘しながら、国語学者の論理と対比させることで話し手が発信する伝達意思の重要性を再認識し、言葉には主体の思想が反映されるということ論じている。

4 普遍的な言語観に対する疑問点をあげつつ、宅配便のたとえを交えて共通理解がないと成り立ちにくい日常会話の性質を解き明かし、固定的な要素を持つという言葉の特性について論じている。

問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で行われる発表に向けて、サステナブルファッションについて調べ、話し合いをしている。次のグラフ、資料と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ



環境省「令和2年度 ファッションと環境に関する調査」より作成。
「着用している衣類」の実数は不明。

Aさん 私たちは、SDGsに関する発表に向けて、持続可能な服装を意味するサステナブルファッション

について調べてきました。前回の話し合いで、サステナブルファッションの実現には、消費者と企業、両方の取り組みが不可欠だとわかりましたね。今日は、消費者に求められていることについて考えましょう。

Bさん では、グラフを見てください。消費者が所有している衣類の利用状況をまとめてみました。これを見ると、一年間で一度も着用していない服が百四十万トン近くもあることがわかります。

Cさん あまりの量に驚きましたが、私にも、買ったものの一度も着ていない服や、似た服を持っていないのだからと買ってしまいました。私もそういう経験があります。本当に必要かどうか吟味し、不要なものを買わないということの積み重ねが、サステナブルな暮らしにつながっていくのだらうと感じました。

Dさん そうですね。ですが、消費者が気をつけなければならぬのは購入時だけではなく、古着として人へ譲渡したり古着屋やフリーマーケットなどで再販売したりする、資源として店舗や地域で回収してもらおう、可燃ゴミ・不燃ゴミとして廃棄するといった方法があると思います。

Cさん 手放す際には可燃ゴミや不燃ゴミとして廃棄されることが圧倒的に多いようです。環境のことを考えると、もっと積極的にリユースやリサイクルしていくことが大切ですね。

資料

門倉貿易はリサイクル不能品の古着を、一キロあたり約二十円の費用を支払ってRPF業者(注)に受け入れてもらっている。不能品が年々増えて処理費用がふくらんでいる、と門倉社長は頭を抱える。

「うちもリサイクル業者なので、不能品をただ廃棄するよりはと思ってRPF化していますが、ビジネスとしては全く成立していない。このペースで不能品が増え続けると大変です。化繊の服は、着る人にとっては安くて快適かもしれないけど、リサイクルがとても難しいということは知ってほしい。せめてすぐに処分しないでほしいです。」

リサイクル不能品が増えた背景は、ポリエステルなどの化繊の服が増えたこと以外にもある。理由の一つは、古着の回収量そのものが増えていることだ。「回収量は少しずつ増えていて、十年前に比べれば今は一、二割は多い。やはり、消費者のリサイクル意識の高まりと、その一方で消費者が処分する服の量自体が増えていることが大きいと思います。」

(仲村 和代・藤田 さつき「大量廃棄社会」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) RPF＝廃プラスチック等を原料とした固形燃料。

Dさん 私もそう考えていたのですが、リサイクル業界は今、厳しい状況に陥っているようなんです。資料を見てください。門倉貿易は、主に資源回収に出された衣類を、古着として輸出したり別素材に加工して販売したりしているリサイクル業者です。資料には、リサイクル不能品が増えて処理費用がかさんでいる現状への嘆きが書かれています。

Aさん リサイクル不能品が増加した理由として、化学繊維の服が増えていることがあげられていますね。これについては、 ことも書かれています。

Bさん そうですね。また、資源回収に出される服の量が増えていることもリサイクル不能品の増加に関係しているようです。要因として、消費者が処分する服の量自体が増えていることが指摘されていますし、実際に七十五万トン程度の服が手放されていることがグラフから読み取れます。

Dさん 消費者のリサイクル意識は低くないとのことですが、手放す量そのものが増えればリサイクル不能品も増加することになります。

Cさん なるほど。リサイクルを推進していけばサステナブルな暮らしが実現できると安易に考えていました。今ある服を大切にし、まだ着られるものを簡単に捨てないなど、今後は手放す際にも気をつけていこうと思います。

Aさん そうですね。では、今日の話をもとめていきましょう。サステナブルという視点で考えると、消費者には ことが求められていると言えます。また、使われている素材に気を配って服を選ぶことも大切なことの一つです。

Cさん そのような一人ひとりの心がけが大事だということはよくわかります。ただ、おしゃれが楽しめるのかどうか気になってしまいます。

Dさん 資料を探す中で、「自分にできることを続けていくことが大切だ」という言葉を見つけました。無理をしても長続きしないので、できる範囲で行動を変えていくことが肝心です。また、企業も様々な工夫をされており、おしゃれでリサイクルに適した素材の服も作られているそうです。

Aさん そうなんですね。今回は、企業側に求められていることについて考えていきましょう。

- (ア) 本文中の に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 リサイクルが難しい化学繊維の服は、RPF化することで多くの燃料を得ることができるため、価値が高いとされている
 - 2 化学繊維の服はリサイクルが困難で大量に廃棄されてしまうことが多く、リサイクルしやすいように改良する必要がある
 - 3 安く手に入る上にRPF化することで燃料になるため、リサイクル意識の高い消費者は化学繊維の服を多く購入している
 - 4 消費者にとって安価で着心地のよい化学繊維の服が、リサイクル業者にとってはリサイクル困難で厄介なものである
- (イ) 本文中の に適する「Aさん」のことをばを、次の①～③の条件を満たして書きなさい。

- ① 書き出しの消費者にはという語句に続けて書き、文末のことが求められています。という語句につながる一文となるように書くこと。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十字以上三十字以内となるように書くこと。
- ③ グラフと資料からそれぞれ読み取った内容に触れていること。

(問題は、これで終わりです。)